

徳川頼倫 100年

事績と人間を語る

今年は徳川頼貞が南葵音楽図書館を開設してから100年。もとは父頼倫が設立した南葵文庫に音楽部を付設したものでした。その頼倫が急逝したのも100年まえの

1925(大正14)年。多面的に活動、旧藩地和歌山のためにも尽くした頼倫の、事績を振り返り、人間の魅力を探ります。



▲庫主室の徳川頼倫侯 高木文「好書雑誌」増補版(1933)より



▲勲一等太極大綬章を佩用した徳川頼倫(1907年)
大韓帝国の勲一等太極大綬章を初代皇帝の高宗より授与された。

よりみち

徳川頼倫 (明治5 大正14)
(1872~1925)

1898年5月に南葵文庫を設立、1908年に公開、1924年に東京帝国大学に寄贈。1911年に南葵育英会を設立、1925年まで会長を務める。また、史跡名勝天然記念物保存協会を設立(1925年まで会長)。日本図書館協会総裁(1913~1925年)、貴族院議員(侯爵議員、1906~1925年)、宗秩寮総裁(1922~1925年)。ほかに東京地学協会、日本弘道会、聖徳太子奉賛会などの会長、副会長、幹事に任じられた。

この写真は南葵文庫本館2階庫主室に南西からの、かなり傾いた陽光が深く差し込む中で撮られている。頼倫はあえて机からはけ、ファイアプレースにも光が届く。そこには朝鮮の統一北魏時代とおぼしき鬼瓦が置かれている。

左上の大きな額にも光が注ぐ。むしろこの大額が明るく照らされて構図に収まる日没間際のわずかな時間に、この額の許にいる自分を撮らせているかのようである。

大額には『政餘閑適』とある。白河楽翁[松平定信]の自筆であるという。出自である田安德川家の大先達でもあり、頼倫は深く尊崇していた。みずから書き残してはいないが、この一枚の写真は彼の敬慕ぶりを雄弁に物語っている。撮影者、撮影時期不詳。

徳川頼倫 略年譜

1871 (明治4)	7月 14日	廃藩置県 和歌山藩知事の徳川茂承（もと紀州藩第14代当主）は東京へ移住
1872 (明治5)	6月 27日	田安德川家第8代当主慶頼（よしより）の6男藤之助（後の徳川頼倫）東京の田安邸で生まれる
1880 (明治13)	2月 10日	徳川茂承の嗣養子として紀州徳川家に入り、頼倫と改名
1890 (明治23)	9月 14日	徳川茂承長女久子との結婚式を挙げる
1892 (明治25)	8月 16日	長男頼貞生まれる
1896 (明治29)	3月	英国留学および欧米巡察に出発 翌1897年11月帰国
	6月 25日	茂承が大磯の高麗園を購入
1898 (明治31)	5月 20日	文庫創立 同年11月17日起工（後に旧館、第1書庫） 翌年12月竣工し南葵文庫と命名
1902 (明治35)	4月	南葵文庫：竣成、開庫式
1905 (明治38)	4月 3日	南葵文庫：新館（本館）と第2書庫の増築着工、安礎式
1906 (明治39)	8月 20日	茂承死去、翌日家督相続 同年9月7日襲爵、貴族院議員となる
1907 (明治40)	5月	満州および朝鮮巡察、大韓帝国の勲章である勲一等太極大綬章を授与される
1908 (明治41)	10月10日	南葵文庫：増築完成、開庫式 同年11月3日閲覧開始
1911 (明治44)	5月	南葵育英会を設立、総裁に就任、旧紀州藩子弟の修学支援
	7月 30日	史蹟名勝天然記念物保存協会を設立、会長に就任 高麗園：既存建築の大半は取り壊し、新たに整備開始
1912 (明治45)	4月 7日	高麗園：中央棟にあたる澄心亭完成し落成式 5月に新築届け出
1913 (大正2)	6月 15日	日本図書館協会総裁に推戴される
1914 (大正3)	7月 22日	育英会幹事帯同で旧藩地巡回へ、各地で講演、賛助会員募る 7月31日 田辺五明楼に南方熊楠来訪
1916 (大正5)	1月 23日	夫妻で和歌山へ あしべ屋妹背別荘に投宿 31日 南龍神社、2月1～2日 徳義社関係行事に出席
1917 (大正6)		藩祖を祀る南龍神社を東照宮に合祀、跡地は双青寮敷地に
	4月 15日	高麗園：全国図書館大会（南葵文庫、13日～）に参集した図書館関係者約200名を招待
	7月 28日	大台ヶ原調査のため東京出発、吉野から入山し8月3日吉野に帰着
1918 (大正7)	8月 13日	和歌山で米騒動 和歌山市の困窮家庭のために資金拠出
	10月21日	南葵文庫大礼記念館（南葵楽堂）開館
1919 (大正8)	4月 11日	第14回全国図書館大会を大礼記念館で開催（～15日）、13日邸内で園遊会、関係者を招待
	4月 14日	茂承が旧紀州藩士族支援のために設立した徳義社解散、建物は双青寮に組み込み
	4月 20日	和歌山の藩祖廟へ、24日神戸港から台湾へ 28日基隆着
	4月 29日	台北着、台湾巡察 5月18日台北帰着、22日紀州会招待会、翌日帰路に就き26日門司港着
	11月 8日	南紀美術会会員を本邸に招待 第1回展覧会は同月18日（招待日）、19～29日白木屋で開催
1920 (大正9)	4月	和歌浦に双青寮落成 紀州徳川300年祭を開催
	9月 3日	米国議員団歓迎会(帝国ホテル)で貴族院議長として英語により歓迎の挨拶
1921 (大正10)	4月 20日	双青寮：和歌山で全国図書館大会開催（和歌山市公会堂で講演）、双青寮で歓迎行事開催
	5月 27日	田辺市の南方熊楠邸を訪問、書斎で菌や藻の標本を見ながら談話
	8月	二条基弘による銅駄坊陳列所蒐集品を受贈する
	10月15日	双青寮：南葵育英会10周年 県下の小中学校教員数十名を和歌浦から瀬戸内海研修航海招待
1922 (大正11)	6月 3日	宗秩寮総裁に親任される
	4月 29日	南方植物研究所設立にむけ資金協力確定、5月7、9日南方熊楠来邸 13日高麗園で歓談
	12月 1日	双青寮：皇太子の和歌山行啓の宿泊所に 和歌祭の渡御行列開催 『双青寮廿一勝』を献上
1923 (大正12)	9月 1日	関東大震災 南葵文庫大礼記念館（南葵楽堂）損壊、高麗園の主要建築も損壊
	9月 25日	被災した在京和歌山県人のための救護支援活動を南葵育英会寮で開始 翌年5月5日まで継続
1924 (大正13)	3月	高麗園：主要建築（澄心亭、友楽亭）の部分解体を大磯町に届け出
	5月 5日	麻布飯倉の本邸を撤収、代々木の清和園が本邸に
	7月 4日	南葵文庫蔵書（音楽資料等を除く）を東京帝国大学図書館へ寄贈
	晩秋	清和園：庭園各所を詠んだ『清和園三六勝』を編纂し刊行
1925 (大正14)	3月 31日	双青寮：静養を終えて宗秩寮勤務再開のため上京
	5月 19日	清和園：深夜（20日0時過ぎとも）に逝去 26日告別式 6月3日長保寺に埋葬

徳川頼倫の図書館事業

— 南葵文庫

林淑姫

頼倫が図書館創設を思い立ったのは1896（明治29）年春より翌年秋にかけて巡った欧米諸国視察の旅中のことであった。教育掛鎌田榮吉、家職斎藤勇見彦を伴った巡察の旅は英国、フランス、ドイツ、アメリカをはじめとするおよそ20か国60都市に及んだ。欧米先進国の政治、行政、産業の実態をつぶさに見て廻るとともに図書館、博物館等の文化施設にも足を運んだ。滞在2年目の'97年に大英博物館を案内した南方熊楠の図書館創設の進言が25歳の青年華族頼倫の心を揺さぶったことはよく知られている。学業が苦手と呟く頼倫に熊楠が言ったことは、不眠不休の努力をして一事を発明し世に益するというのは必ずしも貴人のなすべきことでもなかろう。貴人のすべきことは例えば、今回の旅の見聞を参考に書籍を集め、人にも見せ、得たことを話したり聴いたりして自らも楽しまれよ、だった。

帰国後半年を経た'98年5月頼倫は父茂承の賛意を得て「南葵文庫」（藩地南海道紀伊国に家紋葵を合して名づけられた）を麻布飯倉の邸内に設置。顧問鎌田、主幹斎藤の陣容も定め、先ずは家伝の蔵書の整理とともに建物の建築に着手した（翌年落成）。前年に帝国図書館が設立され、翌年には日本初の図書館令が發布されて近代日本の図書館活動がようやく本格的な歩みを始めた頃である。南葵文庫はその後、一般図書の精力的な蒐集ならびに勝海舟や依田学海らの旧蔵書を受入れ、資料の整理完了（蔵書目録刊行）および建物の増改築を経て、1908（明治41）年秋、文部省の認可のもとに閲覧料無料の公開私立図書館として新たに出発した。

頼倫は「図書館は人の品位を増進し人の能力を加え、修養訓養と実生活との聯盟結合を世に普及せしむる経世の一大機関として、文明国としては一日一刻も欠く可からざる必要なるものであります。」「人格並に知識の修養を積み、文明の訓練を重んずる自主自由の修行場は、即ち図書館に在るのであります。」と高らかに宣言する。欧米各地の関連施設見学を通して培った近代社会に資する図書館に向けられた彼の理念をよく表している。近代

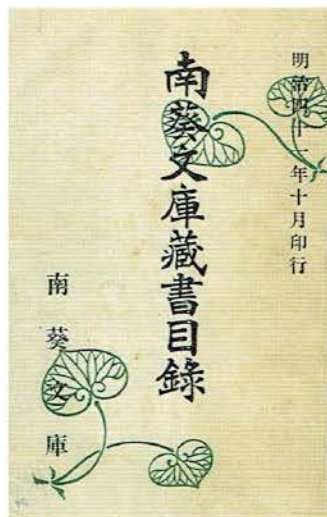


南葵文庫
東京市麻布区飯倉町6丁目14番地
(現・東京都港区麻布台1丁目)

市民社会形成への疑いをいれない純真な期待とともに彼自身がその一端を担うことの誇りおよびよろこびを伝えてもいる。

彼が行なった図書館の事業は、1) 資史料の蒐集（和漢籍、手写本、手稿、地図、洋書。美術工芸品を含む）ならびに整理、関係書誌の作成をはじめとして、2) 和歌山郷土資料の調査および出版、3) 一般向け学術講演会の開催（講演録の刊行）、4) 資料展示会制作、5) 母と子のための行事開催、6) 読書会開催、7) 利用者との懇談会、8) 蔵書目録、年次報告書の刊行、9) 文庫庫員（掌書）の研修活動の奨励。いずれも今日における公共図書館の課題に通じるものである。1) と4) は図書館と博物館の連携と協力を問い（今日提唱されるMLA（博物館・図書館・文書館）運動に通ずる視座）、2) は郷土資料館としての役割、3) と6) は知識と教養を深めるための企画、5) は子ども図書館、7) は図書館運営のフィードバック、9) は図書館司書の専門教育と養成、というように。

私立図書館「南葵文庫」は、蔵書の範囲と質、運営方針、資料整理法、施設、環境、調度品なども含めて揺籃期にあった当時の図書館界の注目を浴び——図書館の理想型として憧憬的と言ってもいい——人びとは庫主頼倫に大きな信頼と期待を寄せた。頼倫は文庫公開時より日本図書館協会（1892年設立。旧名称日本文庫協会）への人的、経済的支援を惜しまなかった。図書館全国大会が東京で催される際には会場に文庫を提供し、庭園での懇親会ではビールのグラスを片手に参加者と親しく語らったという。1913（大正2）年同協会初代総裁に推戴され終生その任にあたった。



『南葵文庫蔵書目録』（1908）



『南葵文庫創立記念会陳列目録』（1916）



『南葵文庫報告第十一』（1919）
大礼記念館（南葵楽堂）開館を伝える。



松浦武四郎『木片動進』（南葵文庫版 1908）
故松浦武四郎「一畝数書斎」の南葵文庫への移築披露に際し刊行。橘井清五郎（南葵文庫掌書長、のち主幹）編。初版（1887）覆刻に「事跡年譜」を付す。



徳川頼倫の社会貢献・公益事業

南葵育英会と史蹟名勝天然紀念物保存協会

江本英雄

徳川頼倫がおこなった社会貢献・公益事業のうち、図書館事業は先にみた通り南葵文庫のみならず日本図書館協会の総裁を務めて、活動は広がりを見せていた。それ以外の三大社会貢献・公益事業とされる、残り二つについて、簡単に紹介しておきたい。

まず南葵育英会から。南葵育英会は明治四十四年五月発足し、今日も活動を継続中で長い歴史をもつ。頼倫は創設以来熱烈な指導力を発揮して和歌山の未来を担う若人の育成に力をつくした。それ以前、和歌山県出身の学生らは和歌山学生会をつくって親睦をはかっていた。その活動には南方熊楠も積極的に参加していた。また和歌山県出身軍人の親睦団体として伏虎会があり、いずれも自然発生的な集まりで、創立の時期は判然としないが、両者の合併の声が高まったのは日露戦後であった。南葵育英会では毎年二号の会誌を発行し、「侯爵家并総裁閣下情報(近況)」という欄を設けて頼倫や頼貞の行動を記録している。年々の記録は三十三年に及んだ。これは頼倫・頼貞の公私を含めた伝記資料となっている。親睦のため、春秋二季に大会が飯倉邸・千駄ヶ谷別邸などで催された。

頼倫は国内では、全国規模の団体を興起、また推されて長となるなどした関係で、各地に足跡をのこしているが、半ば公務による出張といえよう。海外には欧米こそ一度しか行かなかったが、明治三十四年に台湾(大正八年五月に再度)、四十年には満韓旅行に出掛けている。

南葵育英会のほか「史蹟名勝天然紀念物保存協会」は頼倫が設立し会長として、「日本図書館協会」では総裁に推されて、毎年全国各地に足を運んだ。頼倫の公的な動静をそれぞれの機関紙・誌(『史蹟名勝天然紀念物』『図書館雑誌』)などで跡付けることができる。すべてを紹介するといまはないが、これらの社会活動との関係でめだった旅行といえるものは、大正三年の和歌山行き(南葵育英会)や大正六年の大台ヶ原の調査、大正九年の奈良大極殿趾保存への調査をあげておこう。

大正二年に創立された奈良大極殿趾保存会は史蹟名勝天然紀念物保存協会の活動の一環ともいうべく、ながく保存活動を続けて来た棚田嘉十郎との、明治四十年三月頼倫邸での面談後、頼倫が華族・貴族院議員を中心とする全国的な会として改めて発足させたものである。

大正三年の和歌山行きは七月二十二日に育英事業の推進および周知をかねて、県下に巡回講演に出かけたものである。妻の久子も八月二日に東京を発って和歌山に合流し、頼倫と久子は揃って長保寺・東照宮・南龍神社・報恩寺に参拝した。「賛助員」を創設し財政基盤を確立する為のPRで、旧藩主後嗣の人気は絶大で、この目論見は成功した。

大正六年八月には史蹟名勝天然紀念物保存協会として、奈良県吉野郡が主催する山巔夏期講演会に講師を派遣し、頼倫はいち早く七月末に吉野入りし大台ヶ原に登



大台ヶ原登山(1917)

大正6年7月30日から8月3日、製紙会社による山林伐採が進んでいた大台ヶ原に登山した。頼倫の隣は戸川残花。彼の後ろに川瀬善太郎(林学者)、その隣の笠をかぶっているのは白井光太郎(植物学者)。妹尾克己も同行した。



「大台ヶ原登山の記」によせた頼倫による題字
吉野郡上市町発行(1918)より



欧米巡視の3人
頼倫の右に鎌田榮吉、
下に斎藤勇見彦
(写真：小川一真)

り観察をおこなった。大台ヶ原登山は明治二十二年八月(当時十七歳)に試みたことがあり、その時は暴風雨に遭遇、登頂を断念している。これは古今未曾有の大風水害として知られ、大きな被害が出た。それから二十八年、四十五歳とはいえ健脚できこえていた。

また大正十年には瀬戸内海巡航(南葵育英会・広胖会)を行なっている(広胖会は県下小学校教員勤続十五年以上及び中等学校十年以上の慰労会)。創立十年の節目の行事である。

このように関係する団体の開催する行事に先頭をきって精力的に出席し、各地に旅行したのは職責ばかりではなく、楽しみでもあったのであろう。



徳川頼倫侯を語る [抜粋]

橋井清五郎

頼倫侯の青年時代には身体の鍛錬に励まれた。柔道に撃剣に乗馬にひとつとして熟達せないものはなかった。思想身体ともに剛健な方であったからその師範となった人々も力を尽くして教導にあたられたが、随分苦労した人もあったと聞いている。

ある時柔道の師範が道場において練習中侯の身体を力を籠めて引き寄せたが、侯はこれに対し満身の膂力を出してグット師範を抱き締めたが、その人がウーンと唸り声を出して気絶した騒ぎが起こった。侯の体力がいかに強かったかが知れる。それより道場は休止してしまったが、(中略) 在英中も自転車で長途の旅を試みられた。然るにこの剛健勇猛の人が翻然として愉容恭謙な紳士と変じて、誰も侯の武道がしかく優れていたことを知らぬ程になった。それには所以のあることである。

三上参次先生が未だ博士にならない若い時に、博文館から松平楽翁〔定信〕侯の伝記を出された。偉人叢書かなにかの一冊である。これを侯に献じたところ侯は一読されて大いに感動せられた。楽翁侯は云うまでもなく侯の生家田安家の人である。

伝記によると楽翁侯は若い時武術を好み文事を疎かにされたほどで、側近の人も心を砕いたこともあったが、一旦志を屈して文事に思いを潜めるに至って俄然として性格を一変せられ、恭謙博識の殿様となって温雅諸侯第一の人と化したということである。頼倫侯が楽翁侯の伝記をお読みになって感激を深くされたことと、前にいった師範気絶の珍事等が少なくとも公爵の性格の一変せられた一因をなしている事と推察せられる。

侯の一生の動作は楽翁侯に著しく似ている所がある。侯の御殿の一室には九思齋があり、楽翁侯の九思の歌が掲げられた。南葵文庫の庫主室には楽翁侯の政餘閑適の大額〔表紙写真〕が壁面に掛けられてあった。私淑の一端が窺われる。

また楽翁侯は思想は極めて華麗でいられながら毎に倭約を旨とせられた。浴恩園には花卉草木の珍種が集められ、鳩の種類を聚められて谷文晁等をして写生せしめられた。頼倫侯のは自ら持すること節約である。高麗園には山野の珍草を養培されたり山椒魚の巨大なのを飼われたりしてあった。而かも草木の醋葉を襖に貼り込まれたり写生帖を作られたりしてあった。楽翁侯には白河文庫があつて有要な図書が沢山に収められていた。頼倫侯には南葵文庫があつて内外有要の図書が庫に充ちていた。楽翁侯は幕府の政権に重大な役目を尽くした。頼倫侯も研究会や宗秩寮

総裁として人の知らぬ苦心をされた。而して両侯ともに政治の終わりはその思う通りにならなかった。その他平生の起居動作に至るまで能く相似の点があったことのように思われる。

侯は東京生まれ東京で育った人である。維新後旧領地の人々と徳川家の接触は、一日と薄らいでいった。古老の人々も日々に凋落し、その当時まだ若様でいらした頼倫侯には稀に参邸する老人の外は旧藩地の人々に接する機会が少なくなった。侯のお考えでは、三百年間の旧誼を捨てて顧みざることは甚だ不可なることである、是れ宜しく機宜の策を講ずべきであるとし、当時和歌山出身の軍人が組織していた伏虎会と文学生出身の組織していた和歌山学生会をひとつとして文武両道の育成機関を創立し、従来和歌山に於いて旧士族師弟のために設立していた徳義学校の趣意をもこの会の下に包含することにして、侯爵家はこれに援助することを計られ、基金数十万円を寄附し、南葵育英会を新たに起こし、その事務所を南葵文庫内に、その寄宿舎を元の養成塾跡に建てられた。斯くして文武両道の学生を保護援助すると同時に、旧領地を範囲としたる官民に呼びかけ、会員を募り侯爵家との親密を復興し、父兄も子弟も共に郷里の幸福を進めんことに勉めようとせられた。仍ってこの会の春秋大会等には邸内を開放し、父兄も子弟も先進も後輩もひとつになって歓談の間に種々の接触を密にし、あるいは子弟の保護あるいは郷里の実業の開発に資する所あらんとせられた。設立後まもなく幾千の人々は、あるいは賛助会員に、あるいは普通会员に集まってきて、侯爵に直々にご面談もし希望も申し出られ、大いに郷里の幸福を増進した。また郷里の人々にして能力あって世に彰れない人や事業が華麗でないために顧みられないことなどあった場合に、その人を表彰激励したり、事業を紹介発展に資したりすることになった。発明家や美術家などでその恩沢に浴した人も相当あった。学生ばかりでなくこれらの方面にも大いに幸福であった。而して県や市町村の事業にも直接間接に利益を与えた事は少々ではなかった。県民再び徳川家と、昔と体裁を新たにした情誼が結ばれたのである。

註記：出典は『図書館雑誌』昭和17年3月号。文中の博文館は誤りで正しくは吉川半七（後の吉川弘文館）。転載にあたり旧字旧仮名を改めたほか、若干の補綴をしている。（美山良夫）



三上参次『白河楽翁公と徳川時代』訂正版（1891）国立国会図書館蔵

された。頼倫侯のは自ら持すること節約である。高麗園には山野の珍草を養培されたり山椒魚の巨大なのを飼われたりしてあった。而かも草木の醋葉を襖に貼り込まれたり写生帖を作られたりしてあった。楽翁侯には白河文庫があつて有要な図書が沢山に収められていた。頼倫侯には南葵文庫があつて内外有要の図書が庫に充ちていた。楽翁侯は幕府の政権に重大な役目を尽くした。頼倫侯も研究会や宗秩寮



「九思歌」
白河楽翁公〔松平定信〕作

著者：橋井清五郎

（きつせいごろう）

和歌山県士族の生まれ。東京法学院（後の中央大学）邦語法学科卒業。南葵文庫勤務、ベルリン、ロンドンで図書館学を学ぶ。南葵文庫掌書長を経て宮内省図書寮司書官。日本図書館協会理事。図書館学、南葵文庫関連の著作、編集、記事多数。



南葵徳川音楽塾

和歌山県立図書館(本館)
南葵音楽文庫 閲覧室

申込について

閲覧室で聴講 (15名程度) 【事前申込不要】
南葵音楽文庫 閲覧室前で申込票に記入頂きます。

オンライン聴講 (Teams配信) 【事前申込要】

* 申込フォームは右記QRコード
または和歌山県立図書館「南葵音楽文庫」ウェブサイトからアクセスしてください。



問い合わせ先:

[TEL] 073-436-9520 (和歌山県立図書館)

[主催] 和歌山県立図書館



南葵音楽文庫アカデミー

※詳細はウェブサイトでご確認ください。

図書館主催コンサート (南葵音楽文庫関係)

南葵音楽文庫に係るその他団体の活動

南葵音楽文庫サポーター

展示会「わたしたちの頼倫さん」

6月15日～7月20日

きのくに志学館(和歌山県立図書館) 1階展示室

徳川頼倫が急逝し長保寺に埋葬されてから100年。頼倫の功績紹介と関係する資料・遺品を集めた展示会は、企画・構成から会場準備まで、主に和歌山市や海南市に住むボランティアのネットワーク南葵音楽文庫サポーターの有志が行った。

今回の展示はサポーター4名が個人的に入手した頼倫や南葵文庫ゆかりの資料や遺品と、頼倫の人物や功績を紹介するパネル15枚とで構成。

展示資料のうち、たとえば『松浦武四郎記念室図』は国会図書館はじめ他の公的機関に所蔵が確認できない稀少資料である。最終日に展示予定の軸装された頼倫の書は、当時の写真から和歌浦にあった双青寮に掛けられていたと確認された。

2025年

9月20日(土) 11:00-12:00

徳川頼倫の図書館論を読む

林淑姫 (旧日本近代音楽館主任司書)

南葵文庫庫主徳川頼倫が歿して100年。日本図書館協会総裁を務め、日本の図書館草創期に重要な役割を果たした徳川頼倫が構想した図書館のあるべき姿はどのようなものであったのか。今日の図書館運動にも通じる彼の図書館論について再考します。



◀南葵文庫 第二書庫

▼第一書庫

11月15日(土) 11:00-12:00

カミングス文庫収蔵 ヘンリー・パーセル《ディドとエネアス》 手写楽譜とブリテン

佐々木勉 (元名古屋音楽大学教授)

20世紀イギリスを代表する作曲家ベンジャミン・ブリテンは、1950年代の終わり頃、ヘンリー・パーセルのオペラ《ディドとエネアス》の新しい校訂楽譜を出版しようと考えました。そのためには、かつてカミングスが所蔵したその手写楽譜を調査することが必要です。しかし当時、その所在は不明でした。



若かりし頃のブリテン

© National Portrait Gallery, London

2026年

2月21日(土) 11:00-12:00

モーリス・ドラージュと東洋

柚木たまみ (滋賀短期大学教授) 司会進行: 近藤秀樹

フランスの作曲家モーリス・ドラージュ(1879-1961)は、インドや日本を題材とした秀逸な声楽作品を創作しています。彼が東洋に関心を持つようになったきっかけやその時代背景と人的交流、作品についてお話しします。時代背景については、南葵音楽文庫所蔵の同時代のフランス音楽にも触れたいと思います。



モーリス・ドラージュ (1930)

2月22日(日) 11:00-12:00

重要資料報告会

和歌山県立図書館(本館)
南葵音楽文庫 閲覧室

2月22日(日) 13:30-15:30

和歌山寄託10年を前に

徹底討論 徳川頼貞と南葵音楽文庫

パネリスト: 美山良夫 (慶應義塾大学名誉教授) 佐々木勉 (元名古屋音楽大学教授)

近藤秀樹 (大阪教育大学講師) 林淑姫 (旧日本近代音楽館主任司書) [司会]

和歌山県立図書館(本館)
2階 講義・研修室

2月21日(土) 14:00-16:00

和歌山県立図書館(本館)
2階 メディア・アートホール

南葵音楽文庫普及会

南葵音楽文庫普及会は4月に発足。コンサートやアウトリーチなど南葵音楽文庫のイベントを主催し実行・運営を行う。同文庫を全国に発信し、観光活性化や地方創生、地域社会の活性化と文化の発展に貢献することを目的とする任意団体。会長はピアニストの宮下直子さん。



コンサートのお知らせ

①南葵! まちなかコンサート

7月4日を皮切りに、県内各地で6回のほか、奈良市、神戸市等でもコンサートを年内に10回開催予定。

②南葵音楽文庫東京コンサート

南葵ゆかりのパイプオルガンが響く旧東京音楽学校「奏楽堂」で開催。2025年は10月2日と3日。今後は2年に1回開催を予定。

※詳細と最新情報は同団体のウェブ参照。「南葵音楽文庫普及会」で検索。

講読申込先: nankibunka@gmail.com

<https://nanki-classic-crusaders.com/>

南葵文華第13号

令和7年7月31日発行

発行所

和歌山県立図書館

〒641-0051 和歌山市西高松1-7-38

編集

合同会社芸術資源研究所

〒600-8439 京都市下京区坂東屋町261-2-1001

編集協力

有限会社ティアンドティ・デザインラボ

〒649-2326 和歌山県西牟婁郡白浜町椿36